

や

やるぞ～

ま

まけないぞ～

が

がんばろうぜ～

た

楽しい学校になるように

## 「心」の時代・その不易なるものの価値

＜令和3年4月8日 始業式 校長講話より抜粋＞

令和3年度が幕を開けました。今年度がどういう一年になるか、全く予想がつきません。東日本大震災が起こることなど誰もが予知できなかつたように、世界中がコロナに翻弄される世の中になるなど、微塵も想像できなかつたように。

しかし、時間が止まることはありません。時間だけは確実に過ぎていきます。時間とともに止めてならないのは、未来に踏み出そうとする力強い私たちの一歩です。

年度初めに当たり、山潟中学校に関わる全員で確認すべきことは、私たち452名を乗せた『チームしろばと号』がどこへ向かうべきかということです。

山潟中の教育目標は「人の心を大切にする生徒」、重点目標は「自分・学校・地域を誇りに思う生徒」、そして山潟中学校がめざす方向を「新たな時代を豊かに生きるための基礎となる力を育てる」と設定しています。

そして、その“力”を『心』であると定義しています。それでは、ここで意味する『心』の正体とは一体何なのでしょう？

『心』にはたくさんの意味があります。心臓、知識、感情、意思、思慮、思惑、気持ち、心持ち、思いやり、情け、感性、望み、志、特別な考え、等々。英語ではheart（ハート）、spirit（スピリット）mind（マインド）、soul（ソウル）など。一言に『心』と言っても、それを使用する場面場面や立場立場で様々な解釈があり、人それぞれに一番大切にしている『心』があると思います。

私の場合、山潟中の目標とする『心』は、極々単純ではありますが『やさしさ』だと捉えています。やさしい人間とは、他人を中傷したり偏見や差別をしない人間、相手の立場にたって常にものを考えられる人間、そして具体的に周囲に手を差し伸べられる人間です。そして同時に、『やさしさ』を支えるには、どんな困難にも立ち向かう強さとたくましさ、しなやかさを持ち合わせていなければなりません。

やさしさは、人間が備えるべき最大最強の力だと考えます。

これからの社会は、益々情報化や価値観の多様化が進み、人間関係が希薄になることが危惧されています。そのような時代だからこそ、あらためて人と人の絆を大切することが重要です。必要不可欠な資質として、コミュニケーション能力が求められます。そのための『やさしさ』であり、そのための『心』でもあります。

「新たな時代を心豊かに生きるための基礎」となる、自分の『心』・みんなの『心』を、この山潟中の全員で、『心』を一つにして育んでいきたいものです。